

EU Indicators

発表日: 2019年3月25日(月)

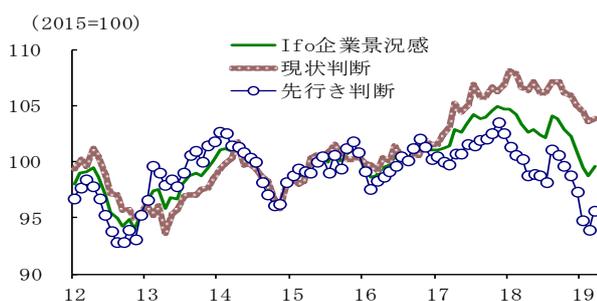
欧州経済指標コメント: 3月ドイツIfo企業景況感

～PMI下振れ+Ifo上振れ=横這い?～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

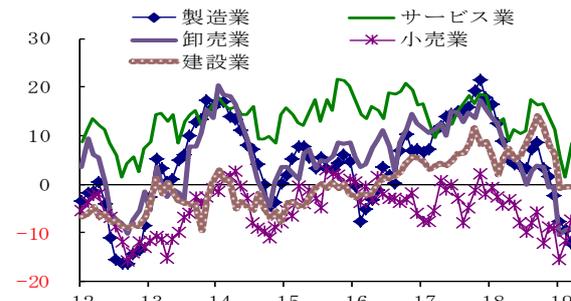
- 3月のドイツIfo企業景況感(2015年=100の指数)は前月差+0.9ポイントと7ヶ月振りに前月から改善した。ただ、過去数ヶ月の落ち込みが大きかったこともあり、今月の反発後も、昨年12月の水準を取り戻していない。内訳は、現状判断が同+0.2ポイント、先行き判断が同+1.6ポイントと、何れも7ヶ月振りに改善。こちらも反発は全般に弱く、現状判断が今年1月の水準を、先行き判断が昨年12月の水準を回復できなかった。
- 22日に発表された3月のユーロ圏やドイツのPMIが、2月の反発から一転して再び落ち込み、景気後退への警戒が広がっていた。今月のIfo指数の反発はこうした警戒を和らげるものだが、反発の度合いは総じて弱く、先行きの不安払拭には至らない。
- 業種別の先行き業況判断(ゼロが分岐点)は、製造業(前月:▲9.4→今月:▲12.2)と建設業(▲0.5→▲0.6)のマイナス幅が拡大した一方、サービス業(+1.3→+8.5)のプラス幅が拡大、卸売業(▲9.5→▲9.0)と小売業(▲11.7→▲7.4)のマイナス幅が縮小した。製造部門の不振を内需部門の堅調がカバーする構図はPMIと同様だが、PMIに比べて製造業の落ち込みが軽微で、サービス業の改善幅が大きかった。
- 調査対象カバレッジはIfoに軍配が上がるが、今月のサービス業の反発の大きさにはやや唐突感もある。他方、製造業PMIの落ち込みも、今回のIfoと照らして過大に出ている可能性がある。両者を足して2で割ったイメージが、今のドイツの景況感の居所といったところか。

■ドイツ: Ifo企業景況感



出所: Ifo

■ドイツ: 業種別の先行きの業況判断



出所: Ifo

■ドイツIfo企業景況感

	2018				2019				2018				2019			
	2Q	3Q	4Q	1Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
企業景況感(総合)	102.6	103.3	102.1	99.3	102.9	102.4	102.1	104.1	103.8	102.9	102.3	101.1	99.5	98.7	99.6	
現状指数	106.6	106.8	105.7	104.0	107.1	106.2	106.2	107.1	107.1	106.2	105.9	105.1	104.5	103.6	103.8	
先行き指数	98.8	100.0	98.6	94.8	98.9	98.8	98.2	101.1	100.6	99.7	98.8	97.3	94.8	94.0	95.6	
業況判断	24.4	25.9	23.3	17.0	25.0	23.9	23.2	27.5	27.0	25.0	23.7	21.1	17.6	15.7	17.7	
製造業	24.9	23.6	17.4	9.0	25.1	24.2	22.9	24.1	23.7	19.3	17.8	15.0	11.3	9.1	6.6	
サービス業	27.6	31.3	30.1	24.0	28.4	27.3	27.7	32.9	33.2	31.8	31.3	27.3	24.8	21.3	26.0	
卸売業	17.1	16.4	14.7	8.4	18.4	17.5	15.5	16.9	16.7	15.9	14.0	14.1	8.9	6.8	9.4	
小売業	4.7	2.8	1.8	2.0	7.7	2.2	1.9	1.4	5.2	0.7	2.5	2.2	-1.4	0.9	6.6	
建設業	20.0	29.6	30.2	19.4	20.3	19.8	27.5	29.5	31.8	32.5	29.3	28.9	19.9	18.0	20.3	

出所: Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

